

第14回 議会懇談会 「農業協同組合、上富良野町農業委員会、富良野土地改良区」

と き 1月15日(月) 14:00～

ところ 保健福祉総合センターかみん 多目的ホール

【1グループ】

自己紹介～中澤議長→春名氏(農業委員会)→向山氏(農業委員会)→佐藤議員→林議員→菊地氏(農業委員会)→沼沢氏(農業委員会)→中瀬議員→荒生議員→佐藤氏(農業委員会)→井村会長(農業委員会)→米澤議員

【第1部】

・ JA ぶらのからはよく農業は、上富良野町は三番手であると言われる。十勝、羊蹄そして、富良野と言われている。

物が獲れなかったり、高く売れなかったりしている。将来を思うと農家が減っていき規模が大きくなる中、小麦の面積も増えていくと思う。小麦は一番儲からないと言われているがなんとか付加価値を付けていけないかと考えた。10年前から津市の平和製粉へ直接麦を送って、売ってもらっている。津市とは連携協定が結ばれているが、平和製粉がもっと小麦が欲しいという要望があった。昨年、町長と一緒にいき、平和製粉と麺を作る会社へ陳情をおこない、経済連携協定を試みたがなかなか難しい状況。小麦は政府干渉作物なので、流通に自由度がないため、町やJAの後ろ盾が必要であった。津市との連携協定をもとにやっていきたいと思っている。

2 付加価値を付けたい。商品開発。さつまいもをつくってみた。意外と収穫できる。実証試験をしながら商品開発している。ほしいもなど商品化できればと思う。

3 農業と関係ないが、いろいろな地域に温泉娘のキャラクターがある。定山溪、登別などにもあるが、上富良野町も新たな需要として目指せないかと思っている。

・ 今現在、富原は若い農家の方は何人になるのか。5年後、10年後、農家がいなくなるのではと思う。個人的には家族経営をしている。家族でどれだけの面積の作業をどれだけでいいのか。面積が大きく出来るのか。一年の所得の何割かが機械の支払いにいく。それだけの値が今の農業にあるのか、何のために経営していくのか。付加価値をつけることが大事と思う。夏の間、農作業をして、他の時間に回す余裕がない。雨降ったら休んだりする。今悩んでいるのは、法人化すべきか。法人化して儲かるのか儲からないのか。周りの若い人もそんな状況である。

経営とは別に町としても観光も積極的にやられているが、今問題になっているオーバーツーリズムの関係で、美瑛なんかで脇道走ったらわかるが、圃場の入り口ごとに立ち入り禁止の看板がある。自分の宅周辺にも設置されている。立ち入る人が農地がどういうものなのかわかってもらえていない。仕事をしているところを勝手に写真撮っている方もいる。こちらからするとプライバシーが観光のせいで守られなくなっている。ただ、観光をなくすはな

しにはならないので、そのことと対立することの無いようにその前に農地、農業の理解をしてもらいたい。

そのことができてから、地域活動に積極的に参加してもらえのなら喜んで迎え入れられると思おうが。なかなかできていない状況。

・ 日新地区の菊地です。上富良野の農業をやっている方、210世帯くらい。あと、5年から10年したあと、自分の地区は今農家戸数が5件やっているが、残り2件となってしまう。私より下の代だと白井さんとなる。その下は23歳の息子となる。自分の息子にも手伝いはしてもらっているが、後継者としてどうなるかはわからない。他の地区を見ても農家戸数が減っているの、10年後、15年後の上富良野農業は後継者が減るが、農家をやめた方の土地を吸収していき、一戸当たりの持てる面積がどれくらいになるのかと心配になる。物価高騰で収入が得れず、また経費も掛かるのでいろんな支払いもある。方向性を検討している。

あと、熊やきつね、鹿の関係で農業被害がある。自分の畑でも何回か目撃するようになっている。町としても熊などの駆除をしていると聞いてはいるがもう少しどうにかできないのかなと思う。

日新地区にあるクリーンセンターについて、持ってきてお金がかかるからなのかわからないが不法投棄が散見されている。山菜を取るついでに不法投棄をしていく。町民生活課には話をしている。

・ 農業をやっているが高齢化している。いつ辞めるかと算段している。後継者もない。しかし土地が売れないと辞めれない。農家は土地を増やすのも限界がある。

女性農業委員の関係、3期続けているがどなたかにやってもらえないかと思う。女性枠を設けて町の方でも良いのでやってもらいたい。

・ 大体被る話になるが、詳細について、私も春名さんと一緒にサツマイモを作っている。温暖化の影響でビートなどの寒冷地作物の収量や糖度がよくない。さつまいもも10年くらい前から北海道には入っている。なぜ去年から作り出したかという買い手がいないと作ることができないが、たまたま、他の品種で取引先が本格的に作るという話がでた。ブリックスがあるということではじめた。2反作るのに4日かかった。機械化するには移植機も必要だし、マルチも必要、収穫機も必要だが、自分のうちに機械だけでやってみた。収量が獲れた。肥料もいらない、防除もいらないという、理にかなっている。去年は、収量がかなりとれた。

上富良野町の奨励作物に考えていくのも良いと思う。そのために補助金を導入するにあたってすべて機械をそろえていかないといけないし、方向性を示してもらいたい。そうすれば導入する農家も増えてくると思う。自家用で作っていた知識も少しあったのでやってみた

が、予想以上とれた。町が奨励作物として助成金があればもっともっと増えてくると思う。あと、向山さんと話しをしたが、私の代で農家を辞めるのか、また法人化するのか、そんな状況にある。地域おこし協力隊の方が3名はいつているが、農業をやりたいと言っているの、そういった方に第三者継承ができないか視野にいれて考えている。そのためには法人化して環境を整えることがベストだと思う。第三者継承がしやすい環境づくりをお願いしたいと思う。

- ・ 農地行政を預かる立場として、上富良野の農家人口が減ってきている。今の段階で平均で30から40戸くらい減少している。今後も農家戸数が減ってくる中で農地をどう守っていくか懸念される。農地を守っていくことを考えないと農家がなくなってしまう。やり方はいろいろあるかもしれないが。最近の水田関係は農地の単価が変わってきている。令和7年度にかわってきってしまうのでもどうなっていくか不安である。将来的に上富良野の農家が経営できる方策を今のうちからやっいていかないとと思う。

- ・ 後継者とはどれくらいの年代か。

- ・ 実際には、国は法人化を進めている。実際に自分の経営をかんがえたら対して変わらない感じであった。この先、大体30町歩くらいで農地面積が増ええ行くと法人化すべきと思う。こなすためには人も雇わないといけないし、土台づくりで働きやすい環境づくりが必要。人を雇いやすい、年金や保険などの整備が必要なので法人化と考えられる。この先、2人で住んでいるが50町弱くらいの面積である。二人でやるにはこれ以上はきびしい。面積要件は関係ないが、実際のところ法人化したときの売り上げがどうだとかあるが、今が売りなのかどうなのか、ぎりぎりのところである。第三者継承をしていかないといけないのかなと思う。

- ・ 法人化のメリットは累進課税がないので、800万円以上儲かっている方は法人化した方が良いと思う。家計と分離されるので給料をもらい、借金などが分離される。冬の支払いがどうなるのか問題となっているが、夏の賃金を下げて冬まで通して雇用している。冬の為に仕事を作っても見たが、うまくいかなかった。保険を掛ける関係が会社の負担にはなる。しかし、自分が国保で相手が社保ということもできる。白滝村で新規就農者が第三者継承をしている事業をやっている。農業実習し、3年後に完全に継承していくようなもの。スタイルとしては理想だと思う。ボラバイトというもの使っている。私たちが直接やるよりはどこかに窓口があればと思う。

- ・ 近い将来法人化が進むと思われるが、小さい農家があることも大事である。いろんな経営体があることでも良いと思う。どこかだけフォローするとかではなく全体的に見ていか

ないといけないと思う。

- ・ 売買の関係、良い土地は動く、悪い土地は動きづらい。
- ・ 十勝がある。あと、鹿児島で焼酎の原料でつくっていたがウイルス、病原体の影響で作れなくなっている。今はその原料を道南で作っている。北上している状況。一番最初作ったのは寒冷地用の白いさつまいもだけ作れていなかったが、紅あずま、金時なども作れるようになった。すべて路地で作るのだが、作れるようになった。
- ・ 理想を抱えてくる方が多いが、なかなか新規で定着してくれていない。イメージと合わない現状。私たちの仕事なので、労働時間が決まっていない。サラリーマン的な感覚だと困る。
- ・ 最初は、何時から何時という定時で入っていただき、ある程度の時間帯をまかせるようにする。そのことによって自分がやらなきゃならないというような育て方をしていないといけない。
- ・ 窓口がない。たまたま運が良かった。ボラバイトは夏先だけの大学生がやるようなもの。

【第2部】 15時15分

司 会 金子議員

自己紹介 議 員～北條議員→岡本副議長→井村議員→島田議員→茶谷議員→小林議員
農業委員会～井村会長→佐藤氏→沼沢氏→菊地氏→向山氏→春名氏

- ・ 農家では獣害、写真撮ることが困るし、早朝にも来られる。先日役場の職員がきてその旨話をした。看板をだすことでは対策にならないと考えている。前向きに考えれば私たちと仲良くなれば、良い方向性にもっていける。その方々と仲良くなる。トラクター屋の帽子をあげてその方は許可を受けた人ということの取り扱とし、取り組みをしている。行政で取りまとめてやってもらえると良いと思う。スポットの紹介など。取り組みがうまくいくと泥まみれになっているところを見せることが消費者の中で野菜などを買ってもらえるなど応援する人を増やすという期待感がある。行政でファンクラブ的なものとして作ってもらい農家と、撮影者とが繋げる窓口になってもらえればと思う。
- ・ 撮るなど言っても撮っていく。HP 載せても露骨なので、工夫が必要。
- ・ 積極的な受け入れとしているが、私自身はその判断の前の話でどう考えるのかと思って

しまう。観光客にむけてPRするには相当難しいと考える。観光事業をやっている人も入ってくる現状。農地の事の理解をしてもらっていないので、仕事をしているところを撮られるのは慣れていない。外人ならあきらめるが、日本人にもそのような人がいることが理解できない。景観の町の美瑛町も力をいれているがとりあえず看板対応としている。町の観光に力を入れるのならそのことも対策をとってもらわないと困る。上富良野八景の周辺の農家は苦労しているのかなと思う。そのことを理解してもらった上で必要。

- ・ オーバーツーリズムについて、コロナも終わり、日新のクリーンセンターの周辺の畑、青い池に行き来する方の車の往来がある。ごみ収集車も渋滞してしまうほど。クリーンセンターへ向かい交差点がそうになっている。オーバーツーリズムの中で、迷惑する部分もある。コロナ過の時は交通量がなくなったが、今でも、たまたま農地の写真を撮りに来る方もいる。あと、山菜をとる方がいる、取り付け道路に車を止める。作業等に影響するので規制などが必要と考える。

あとは、獣害の話も先ほどの時にしたが獣害対策は引き続きお願いしたい。
交通安全の観点からもクリーンセンターへ行く町道などの周辺草刈りを町の車両を貸付けを受けて行っている。見通しの悪いところも併せて対応している。

- ・ 交通安全のところでは西11線道路で、夏冬問わず三脚をたてて写真を撮っている。冬は特に道路幅が狭くなるのであぶない。見通しが良いなら良いが、坂を下った途中で撮影している人がいる。

- ・ 農地法のこと令和7年度から変わる。あっせんの仕方が変わる。あっせんは改善組合があるが出てきたあっせんの物件があり農業委員会に降りてくるのだが、令和7年度からはあっせん物件がでてきたら間に公社(国の機関)が介入してくる仕組みとなる。そのことで、手数料が発生する。右から左にいくものであるものの。まだ具体的には決まっていないが、6年度中には情報はでてくる。今までも公社あっせんはあったが、これからは、公社と受け手の案件というふうに変わっていくので時間がかかってしまう。1か月は長くなる。公社はあっせんが出てきたときに出して受け手がないと出してくれない状況となる。

令和7年度からの部分はなぜそうなるのかということ農家戸数が減っている中で、農地マップを作りなさいということになっている。農地を誰がつくっているかなど。上富良野には再生協議会があるので農地マップがあるのでそちらが代替えできるが。農業委員会の事務局としても負担がかなり増えてくる。

事務局の負担としては、水田の畑地化について、畑地化になっていけば良いのだが、水田の3つのカテゴリーに分かれてしまう。管理ができるのかが懸念される。もう少しルールを簡略化してほしい。

- ・ マップのことはどちらかというところ府県の問題。北海道には合わないもの。水田の単価に影響していくと思われる。純の水田と、畑地化された水田と単価が一緒なのか。具体的な数字はできていない。畑地化した方が低いのだと思うが。
- ・ 畑地化した反当は、耕作した人に入る。
- ・ もう農家をやめていく人として、また環境が違う。
- ・ 改善組合で単価を決めていたが、地域で決めて農業委員会にあがってきているが、これからは公社がさらに間に入ってくることが問題である。3条は親子間の使用貸借だけ。第三者への部分がなくなる状態になる。
- ・ 少子化で人口が減っていくなかで農地を守っていく必要があるかないかを議員に質問したい。

第14回 議会懇談会 「農業協同組合、上富良野町農業委員会、富良野土地改良区」

と き 1月15日(月) 14:00～

ところ 保健福祉総合センターかみん 多目的ホール

【2グループ】

【第1部】

岡本議員→北條議員→井村議員→島田議員→茶谷議員→小林議員→西木晴彦氏(JA)→小田知幸氏(改良区)→藤崎祐一氏(JA)→横山慎太郎氏(改良区)→山崎康司氏(改良区)→中田隆宏氏(JA)

・ 農業振興計画がパブリックコメントにかけられている。作成にあたり気になることが後継者なしが約230戸となっている。それに伴い道営の事業等で農地面積の規模拡大、集積されて作りやすくなっている部分がある。これから出てくる農地に関してどう取り組んでいくのか。穀作物だけ、収益性だけ面積が埋まらない。かといって、集約作物を選択するかを農家は選択している。もう一点、地域おこし協力隊について、上富良野でも複数来られているが、3年は継続していただけることと、いずれは、営農の方へ独立なのか、第三者なのかわからないが、営農するという話を聞いている。穀作物だけでなく、ホップやシソなど言葉は悪いがマイナーな作物を手掛ける方がいて、自立していけるのかという部分と地域との関わりの部分、勉強する部分含めてどう付き合っていくのかを考えていただきたいと思う。

・ 国の施策として砂糖が余っているのでビートの面積を減らしていただく。それについて、輪作体制がそのことによって崩れてくる。麦、豆、いも、ビートなど輪作している中で、ビートが一部売れなくなるということは、大豆などに偏り値段がつかない。手間のかからない麦が多い、転作障害におちいり、収益があがらない。農家にとっての輪作というのは本当に大切なことである。農業継続のために何とかやっていけるように体制づくりが必要。あと、高温障害によって作物が育たない。雨が降り出したら止まらない、欲しいときにふらない、麦など品質が落ちたりする。元は寒冷地作物を作っていたが、今はさつまいもが獲れたりする。暑さ対策に注視していく必要がある。

・ これからの時代、土地を増やすのか、施設物でやっていくのか。面積を増やすよりはハウス栽培を増やしたいが、資材の高騰がある。鉄骨ハウスが2重にしたら200万円以上となり、以前の倍以上で補助を受けても面積を増やすのがなかなか難しくなっている。転作も色々なものが当たっているが、下がっている感じでもない。もっともっと増やしやすような環境があればと思う。

・ 面積より収益の多いものを増やしたいという意見だと思うが、人手がかかるのでは。

- ・ おかげ様で後継者はいるが、いつかは限界が来る。人を入れるということも考えるが、なかなか来てくれる人も少ない、人件費の問題もある。
- ・ 後継者がいない状況で、10.20 年後このままいけるとは思えない。やめるときの農地、売れなかったらどうするのか、考えていかなければならない。閉農者の問題も考えなければならぬ。
- ・ 面積を増やすなら農機具など必要になる。なるべく自分たちでできる部分でとなるが、面積が余っている部分に対し、人が増えるかという資金を用意してあげることも合わせて行わないと厳しいと思う。
- ・ もう少し面積ほしいと思っている。それが地域によってなかなか条件が整わないこともあるし、気候変動などを考えると先が読めないと思うと、子どもには安定した仕事をしてほしいきもするし…。世の中先が読めない要素があるので、子どもに継いでもらうのも考えてしまう。
- ・ 地域の外れにある農家に水等のインフラ整備をこのまま続けていけないと考えている。畑は畑、田は田で団地化しなければならない。
- ・ 傾斜のひどいところは畑が放置されている。
- ・ 不陸地などが放置され、良い土地に集中され面積が増えていくと思う。不陸地を酪農がどうなっていくかはわからないが、活用していくなどが必要。
- ・ 畑を地目変更で山林にしてしまう、減っていくのは間違いない。木が勝手に生えてくるなどとなり、管理しきれない。
- ・ 1年目の方はもうすでに1年が経過し、残すところ2年となり非常に厳しい状況だと思う。他の自治体の地域おこし協力隊の方々は、町のPRや活動をしないという人もいて、なんにでもはまっていく人かと思ったが、農家に集中していく方もいるということがある。経済団体もその実態を知らないという訳にはいかなくなる。どんな人がやっているのかがわからない状況。情報を最近聞いて、横のつながりが少ないのが残念。あまりJAを意識していない状況。違うことを意識している。3年後の就農するときには、JAを意識していただければと思う。
- ・ 町から紹介でもいいから情報がほしい。就農を目指しているかもしれないし、顔も知ら

ない。

- ・ 一般作物も就農を目標に研修などを受け入れていかなければと思う。
- ・ 地域おこし協力隊は今回初めて農業者が入ってきている状況だが、町もまだ実績がない中で進めているような状況。施設作物に特化するのか、いきなり来て50町歩のことをやるのか。大型化の機械を入れていくのは厳しいと思うが集積された大規模農業の事も学ばないといけないし営農者の1人としてやっていかなければと思う。
- ・ 我が家は農業をやっているが、畑作と野菜の40町歩の経営をしている。たまたま、地域おこし協力隊の一人が雪下ろしにきていただいたが、雑談の中で、ぜひ、うちにも来てくださいと言う話を行った。だんだん、組合員数、農家戸数が減る中であるが、放棄地がでないよう頑張っていかなければならないと思っている。

(14:55)

【第2部】

自己紹介 中田氏 (JA) →小田氏 (改良区) →藤崎氏 (JA) →佐藤議員→林議員→横山氏 (改良区) →山崎氏 (改良区) →荒生議員→中瀬議員→米澤議員

- ・ 被災されている場所で、限界集落の中で、スーパーの前で軽トラ市として行っていた。限界集落の定義はわからないが、限界集落は、店がなくて、地域の人が集まり仕入れをしたりしていた。(農産物、海産物など) 手数料など15%くらいとられていた。周りの人口などを考えると当町とそんなに変わらない状況の中で店じまいした商店で、スーパーも売店みたいな形で経営されていた。当町も限界集落の定義に当てはまっているのではと感じた。第9次農業振興計画の案で年齢比率の事が載っているが、全体的に地域ごとに出ているが、ラインが50代をはるかに超えている。5年したら5ポイント上がってしまう。地域活性と言ってもいかに防いでいくのが大事なのかと思った。

- ・ 上富良野で農業をやっているが、農協の役員になって、数字を見る場が増えたのだが、上富良野町畑作物の平均反収が5市町村の中でも悪い。どうしてかと言うと、上富良野町が他の状況と比較しても土地の条件が悪い。粘土質とか傾斜地とかが多い。他の地区と同じくらいにもっていくためにはどうしたら良いのかを考える。土づくりなどが必要と思うが、雨など降ると流されてしまうことがある。どうにかするというのは大きな問題である。条件の悪いところで農家をやっていると実感する。

- ・ 農家の後継者不足の時によく3Kと言われていたが、今はそういう話は聞かなくなった。しかし、農家の後継者不足がなぜ起きているのかは、農作物の価格が昔から変わっていない。さらに経費だけはあがっていたりして、農家の経営ができるのかという不安がある。農作物の付加価値を高めるという話が先ほど上がっていたが、そのようにしていかないといけないと思う。

- ・ 後継者問題。今の農家の方は畑作の面積が大きくなってきているが、後継者がいなくなった時に面積をカバーすることが増える。農家戸数が減っていき、大きい農家が増えていくが、その農家が経営がダメになった時、その後どうなるのかとを感じる。あと、天候などの要因が大きくて本当に後継者としてやらせるべきなのか考えてしまう。

- ・ 第三者継承について、行政に考えてほしいと思う。取り組んでいる自治体もあるが、農業の方も考えていかないといけない。金額的なもの、面積的なものがどんどん大きくなってきている。難しい条件となっている。行政の方で対策について検討いただきたい。

- ・ 一番は後継者不足。今後、食料不足になったとき、農家がすぐ出来るかと言われると無理だと思う。今のままで行くと、経済など条件不一致などが生じる。面積だけ増えても食料不足に陥ったときに対応が出来ないと思われる。企業でも自分の所で野菜を創ったりしているが、1年で収穫できるものしか作っていない。企業が北海道の広大農地で、手掛けるかと言われるとできない。半年しか作物が作れない中で、収益が上がらない現状である。農産物の価格が上がって農家が経営していけるようなものにならないとだめだと思う。

- ・ 第三者継承について、制度的にやりやすいというだけで、本来それに乗っかるとしたら、法人化されていないところでも継承できるようなものを作ってほしい。法人化にとらわれなくても良いもので考えてほしい。

荒生議員 法人化して規模が大きくなって一方、傾斜地など農業的に作りづらい状況だった時に、ハウスものだったりに取り組み、農業不作地を出さない施策、取り組みが必要と考える。法人の第三者継承ということもルールとしては理解するが、法人化せずに一生懸命頑張っている個人の農家に引き継げる手法はどんなことが考えられるか。

- ・ 法人化はやはり人を雇うとなれば安定した収入のある作物が必要。冬は冬で雇用を生まなければとなれば、かなりきついと思う。第三者継承こそ、してほしいと言って、土地に対しての思い入れが大きい中、ぱっと来た方へうまく継承できるものか懸念される。

- ・ 後継者がいなければ誰かに造ってもらわなければならないが、第三者継承も視野に入れなければと思うが、初期投資など、金銭的な負担が大きいので良い方法が思いつかない。

- ・ 作況とか立場的に、回っているが、東山地区などは傾斜地が多いし、生育過程がきびしいと思えるが、例えば、玉ねぎなどを多く作っているが、獲れているという話を聞いている。初期投資などもあるし簡単につくりたいと言うふうにはならないが、中富良野、富良野、山部、東山地区いずれも玉ねぎの大きな面積を持っている。上富良野は水田が3割弱、水田が7割強である。畑作物の品目が数字に代わっていると思う。

中澤議員 作物が違って反収が少ないとなっていて、儲かる農業でないと後継者がいないということに繋がっていると思うし、更にどこにネックがあるかを地域で考えていかなければならない。問題点や課題は共有していると思うが、そこから抜け出していないと思われる。具体的に行政に求める、制度を通してほしいなど具体的に出てきているがそれ以外が具体的に出てきていない。自分のところの農業をどうやっていくかが先になっていて、地域の問題点はその次となっている。問題点がみんなで解消できないのが現状なのかと思う。

- ・ 第三者継承で良く聞くのが、宗谷や根室などで酪農の事を耳にするが、畑とか水田ではみたことがない。上富良野の農業的には2年間営農の実習を指導者のもとですれば自立できるということがある。行政によって違うとは思いますが、酪農はどちらかというとヘルパーを使っていくことが多いので、求める仕事、経営だから人の出入りが多いと思う。100町単位の草地の面積も多いし、そんな環境だから第三者継承にたどり着いたのだと思う。畑作、水田してもそうだが、時期的に切羽詰まる時がいつか来るという危機感がある。

- ・ 法人化するのは簡単だが、農家は冬作業や収入がない。夏場に稼いだ収入だけである。人手が足りない時には雇わないといけませんが、年間雇用でないと人を集められない。払う分だけの収入がない。季節労働者はほんしゅうへ出稼ぎになってしまう。冬働ける状態を作らないといけない。雇用を維持していけない。値段が上がってくれば良いのだが、消費者は値段が上がると買わなくなる。日本だけがおなじ価格でなっている。そのことを法人を作って環境づくりが必要。

- ・ 十勝の方へ行った時に、大規模にやっているところの方に聞いたときに、大きくするのを止められた。メリットがあまりないと思える。

上富良野で法人化しているところは、一心生産、興農社があるだろうか。興農社の話聞いたが、夏の単価を調整して冬に充てているという話を聞いている。

- ・ 個人の農家で法人化がメリットを感じるなら皆がすでにやっていると思うが。

- ・ 以前に中富良野でも集団で地区ごとにやった経過があるが、うまくいかなかったと思

う。発想の転換をしていかないと法人化にはなっていないと思う。土地の集積化もうまくいかないとと思う。

(16 : 00)